

## 今、沖縄の美術界は!

城間 喜宏

冒頭から過激的発言に受け取られても仕方がないのだが、今沖縄画壇に画家(アーティスト)を自覚している真の作家はどれほどいるだろうか。ただ単に、個展やグループ展で発表して、どこかの公募展で受賞し、会員に推されて肩書きを持つ。絵も売れるようになり、あとはベレー帽をかぶればプロの画家である、それでよいのだろうか。いやはや、全く素朴な質問で恐縮だが、そろそろ沖縄の美術界も美術家のあり方を見直す時期にきているのではないか、なぜかこのごろ作家が見えてこないのだ。勿論グローバルな視点からである。以上、本音をもらすと自己批判でもあるのだが…。最近、次のような声を聞く「今、沖縄美術界は静かで、何かしら沈黙し切っている様子である。フツフツと、内に熱いものを秘めているのか、でないのか。押せど叩けど出口が見つからないのか、表現者を白けさせる時代なのかどうなのか、とにかく全体としてダマリ込んだような気がしてならない」。ところが近年、県内の画廊は急速に増えていて、どの画廊も半年から1年分埋まっており展示会は活発である。筆者の机上には展示会の招待状が舞い込んで積もる。何も沈黙し切った様子ではない。つまり、今の沖縄画壇はプロ、アマ入り混えての春爛漫の花さかりに見えるのである。さて、ここで沖縄における過去の現代美術の流れを見てみよう。まず避けて通れないのが1960年代である。当時、沖縄美術界は世界や日本国内の美術変動に対し鎖国状態だった。信託統治下の沖縄の若い作家たちによく感知され、自称アバンギャルドの旗手として、いち早く結成されたのが62年、筆者や大浜用光、大嶺実清、永山信春などを中心としたメンバー7人の「グループ耕」であった。

グローバルなところでは、美術界の動きは60年代を前後して、思想や表現スタイルが多様化し、まさにさまざまな作家たちの多産な時代で、現代美術の枝分かれ現象が著しい年代であった。ところで大戦後の世界の美術はニューヨーク美術を中心に活発になり、「抽象表現主義」から「アンホルメル」、「ネオダダ」とヨーロッパを誘発しながら現代美術は世界に広がった。60年代から70年代は純粋芸術への痛烈に皮肉な「ポップアート」を皮切りに、「ヌーブ・リアリズム」、「ミニマルアート」、「キネティックアート」、「ランドアート」、「コンセプチュアルアート」など枝分かれとなり、美術の世界を大きく広げ、それぞれが提案した様式や考え方を積極的に答えようとした。そのように多岐にわたった「アート」の渦中で、沖縄美術界ではそれなりの反権威と前衛運動に、熱っぽく行動した「グループ耕」が67年に解散した。又、米欧の美術動向を身をもって体験し、「グループ耕」を評価した安谷屋正義が急逝したのもその年であった。以後、筆者、大浜、大嶺に安次富長昭が加わり、「亜熱帯派」を結成、実験的な作品を発表していく。一方、永山とメンバーだった新垣吉紀らは「NON」を結成、ランドアートのパフォーマンスを漫漶や空き地で発表した。70~80年年代にかけて沖縄画壇は東京中心の公募展活動へ移行する、又その団体の支部が多く出来、絵画人口も増えてきた。支部のひとつとして、70年に結成した「沖縄新象作家協会」は前衛的公募展団体の新象作家協会を母体として結成された。筆者を中心に翁長自修、岸本一夫、稲嶺成祥、和宇慶朝健らが結成。現在でも大浜英治、川平恵造が主体となって、その姿勢が受け継がれ、県内唯

一の前衛的実験作家団体として活動を続けている。80年代に入って世界の芸術運動の波が静まりかけているのはなぜか、沖縄美術界の沈黙しきったダマリは何であろうか。80年代に入って、ブルーリズムが提唱された。それは急進的前衛主義乱立からの脱却で、理論より感覚が優先した伝統的技法に、現代絵画の多様性を取り入れる在り方である。現代アートは既にあらゆる技法や表現方法を出し尽くして来た。現時点では、かなりしつかりした個人表現(コンセプト)がない限り、実験的前衛作家は過去の時代の多種多様化された、主義・思想の類型に分類され、歴史の社会背景の産物にされても文句は言えまい。真の自己主張のない抽象作品によく見られることだが、他のいろいろな様式を取り入れ、すましている画家が多い。個人表現(コンセプト)のない画家や、歴史的印象派を日本流フォービズムにした絵画が、時代錯誤を伴ってアマチュア画家の絵と混在し、沖縄画壇は一見華やかに見えるのである。一方、真の作家は静かに沈黙し切った美術界でグローバルに視点を置き、フツフツと内に熱いものを秘めているはずだ。又、出口は既に見つかっている。ただ現代美術を受容しきれてない沖縄社会にあつては、真の表現者を白けさせる時代である。今、世界的に企業メセナ時代が来ている。沖縄でも琉石がトップを切った。いろいろ非難はあったが、その姿勢を大事に見守りたい。時間をかけて是正すればいいのだ。より多くの沖縄の企業が、文化芸術に参加し、「沖縄企業メセナ協議会」が発足し、真の意味で芸術文化が社会に受容される時代が来るのを期待する。

(しろま きこう・画家)



日本セメント沖縄地区総代理店

株式会社 **金城キク商会**

本社 那覇市西1丁目1番28号電話(0988)66 1101(代表)  
中部支店 沖縄市宇松本1102番地電話(0989)37 0404(代表)

地元のビールが断然うまい。

最も新鮮

**オリオンビール**

VOICE'S TALK

# 世界の美術界はガス状態!!

A TALK ABOUT ART

幸地 学  
(彫刻家・画家・37歳・パリ駐)  
金城 満  
(画家・32歳)

沖縄の作家がメジャーな国際画壇へ出るということ。それが現実の美術状況からどのくらい見えるのか、パリ在住10年の幸地学氏と沖縄で活躍する金城満氏に語ってもらった。

GV=ギャラリース

## 作家の環境

**GV** まず幸地さんから、ヨーロッパで作家活動をするようになったきっかけを話して頂けますか。

**幸地** 僕がまずパリに渡った大きな理由が、どうしても西洋美術、近代美術をやる上でその発祥地に行つて伝統の上に自分の身をおいて獲得出来る何かがあると思つたんです。

もうひとつは、これは向こうに行つて感じたんですけど異質の文化が交差していて、視覚文化においても物事の思考の基準判断が多様多様、多角的であることに魅力を感じました。

**金城** 確かにその場に行くというのは、いろんな意味で強いものがあると思います。

**幸地** 実際、行かなかつた状態、経験しなかつた状態で話すのもおかしいんですが。

僕は日本にいと自分が自由にやるというのが、束縛されている感じがしたのには確かなんです。とにかく近代美術の大

海原にまず自分を置いてみようかね。

だから今、日本にいたらと考えた場合にね、異質の文化とか、あるいは近代美術の流れなんかは、観念として解ついても実感として物を見て判断は出来なかつたような気はしますね。

実際、僕が近代美術の勉強をしたのは、理論より現実の作品を観てということですからね。

**金城** ただ美術はパリの方がいいという議論に持つて行つちゃうと表現というの

のによつて触発されるんだけど、その触発される可能性のなかに時代、メディアが入ってくるということなんです

そういう考えで、ここ沖縄でつづつてやってみようという感じがします。

衛星放送は同じ時間にニューヨークのニュースが見れるんです。間接的に身を置くのというのは確かにイリュージョンですけどイリュージョンを信じているのではなくて、ただそれに触発される人間の存在の厚みを信じているんです。



幸地 学(左)と金城 満(右)

はうすつぱらなものだし、表現というのは成り立たないと思うんです。

じゃあ、沖縄というこの地で何をやるかということになります。僕はこの時代を見たい、社会というものを見たい。時代や歴史に厚みがあるように、人間の存在の厚みを信じたいんですね。

内的な可能性、それは確かに外的なも

DNAの存在を、35億年の厚みをね。表現の可能性はすでにインプットされているんです。ただダイヤルがわからない。

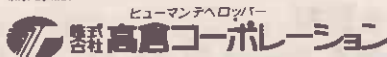
僕が時代を信じているというのは、みんなダイヤルを合わそうとしているんだけど、一昔前はダイヤルは平面上で移動しないとなかなか合わなかつた。

現代は衛星放送に象徴されるように縦



パームヒルズゴルフリゾート

ヒューマンテクノロジー



代表取締役会長 高倉 文子  
代表取締役社長 高倉 幸一

〒900 沖縄県那覇市久茂地3-29-56 Tel0988-61-7621

おかげで、これから



琉球石油株式会社

沖縄県那覇市松山2丁目27番1号 ☎(0988)88-2131

の座標が地理的条件や時間的条件を超えちゃったんです。

ですからどこにいても、ダイヤルを合わそうとする行為が可能で、それが美術行為だと思ふんですよ。

**幸地** 確かに沖縄に居を構えて、そこを拠点にして流れを変えて行くことができないかということがあります。

今の時代はインターナショナルになれどなるほど個人の資質、存在感が目ざされてくると思います。

ということは沖縄にいても世界的な美術行為が可能だということを前提にしても当然いいんじゃないかということなんですね。

自己正当化だけで何も要らないという正当性は、実際必要ないですからね。

とにかく、どんな方法をとっても表現への厳しさというのは押しかかってくるでしょうね。どんな方法で可能性を求めてもそれは避けられないんじゃないんでしょうか？それだけの覚悟をもってやる人が、おそらく美術の流れを変えていくでしょうね。それはおそらく少人数に限られると思うんですが…。その少人数の力、存在感がポジティブな面で大きく沖縄大衆の新しい文化を創り、浸透していくんじゃないかという気がします。

現代美術を担えるのは、結局ひとりひとりの芽生えというか本当に主体的に、いろんなしがらみを乗り越えて、本当に自由人として、内から湧き出るパワーというものを出せる人たちなんだと思います。

## 美術家で生きる

**金城** 幸地さんのバリでの厳しい作家活動について、いろいろ聞いて思うんですけど、当時向こうの方へ渡ったのは、「生活」よりも「生きる」ということを選んだということだと思います。

この年齢にもなると生活を考えないといけない。二者選択を迫られたら、九割九分「生活」を選びますよね。

へたすると、のたうち回るし。近代美術を実感したい、ヨーロッパという厚みを実感したいというだけで本当に「生きる」を選べるのか。

そこらへんを、幸地さんにぶちまけて

話してほしい。本当は美術じゃなかったという気がするんですよ。

本当に厚い実感が人間に生活より「生きる」を選ばせるのか。何か他に動かされているものがあるような気がします。説明づけられないことなのかも知れませんが。

**幸地** 確かに生活面については悩みますよね。

日本に帰って教員免許をとるという方法もあった。しかし、僕はそういうことを一切、排除しながらやってきたんです。

**金城** だから美術にそういう力があるのかということ

を、僕は聞きたいんです。

**幸地** かなり本質的なことをおっしゃっていると思いますが、おそらく美術じゃなくても他の職業、たとえば車のセールスでも徹底してのめり込んでいたと思います。そういうことと言えば、人間が職業を生きる使命感として、つまり社会の大きな役割として自分の可能性を生涯、実感していくことは、大事なことなんだと思います。

**金城** 生きる意味ですね。

**幸地** そう。その生きる意味を呼吸し、一時的なものではなく、かなり大きな深さで得たいというのは、僕自身のなかにあっただけでしょうね。

それが、たまたま僕の場合、美術であっただけでしょうか。

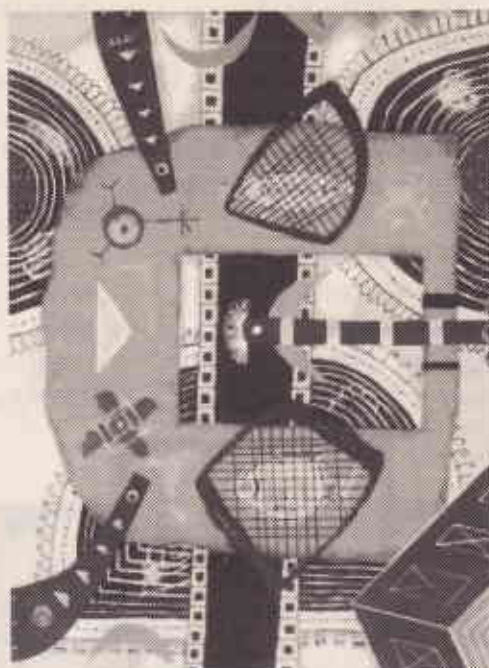
**金城** 僕が聞きたいのは美術が果たしてそれだけの力があるのか、二次的なものではないかというのは、人間のなかのエネルギーという部分の存在なんですか。

エネルギーがその人のなかで、どんどん湧き起こってきて美術というのに出くわしたときに、それを美術化していくと思う。

幸地さんを見て、まず存在のエネル

ギーを感じる。

幸地さんには美術が全面に出てるんだ



幸地 作品「RECIF CORALLIEN」56×76cm  
リトグラフ、ED160

けど、本当に美術なのかなー、そんなに美術を信じているのかなーと正直、思うんですよ。

**幸地** 確かに人間の存在の可能性という言葉は、今だからこそ言えると思う。しかし、当時は本当に模索状態だったから。

**金城** たとえばですよ。ペニスの先に針を突き付けられて美術を選ぶかという時に、やっぱり今の僕は選ばないと思うんですよ。

人間の存在を産むときに美術じゃなくて、ペニスを選ぶと思う。幸地さんは美術、美術と言うけれども、ぶちまけてほしい。

本当にそれだけ美術を信じているのかということ…。

**幸地** やっぱり信じていますね。今は確信があります。

以前までは、ぼやけていたと思うんですが。とにかく人間の可能性、生きる存在感というのを美術に託そうという希望でやってきたわけです。

金城さんが言うように美術が信じられるのか、それに生きる価値があるのかということ考えた場合、今はっきり「イエス」と言えますね。

確かに今は僕自身、生活と美術が一体



**Kentucky Fried Chicken.**

株式会社 リウエン商事  
代表取締役社長 宮城 義明

〒901-21 沖縄県浦添市宇勢理客556番地 TEL (0988)75-2168

国家試験合格者輩出-No1の総合コンピュータ専門学校

専修学校 **CSCコンピューター学院**

那覇校 ①900 沖縄県那覇市山下町103-1 電話(0988)59-0746  
中部校 ②904 沖縄県沖縄市宇室111-1-10 電話(09893)8-1631

化しつつある状態ですけど。しかし、はっきり言って向こうでは何度も押し潰されそうになることばかりでした。

1987年の夏などは、その圧力をもの凄く感じて頂点に達しました。心理的にも完全に、おかしくなっていたと思います。

こんな絶望感でいいのか、こんなことでいいんだろうかと悩みました。33歳の時です。

子供もつくらなかつたし、お金をすべて美術の学問、研究、創作に投じてきて、幸い実家からのある程度の援助もあったんですが、それを自分なりに最大限に活かしてやってきて、反発されながらも徹

それから1988年、沖縄で第1回の個展をして、デンマーク、ルオールドパリでもやればやるほど、コレクターが注目してきました。

しまいにはサミーキンジョという大きな画廊からも、お前の作品は本当に凄い、今まで聞いてもなかったのにとということで、ひとつの存在として認めてくれるようになったのです。

そのほか、いろんな大きなギャラリーからもパリのアーティストとして位置づけられるようになりました。

そういうことを通りこして、僕自身もなかで生活と表現、美術が新鮮な形で一体化してきたという感じがします。

**GV** これは、沖縄の作家皆が切実に抱えている問題なんですよ。一生懸やればやるほど虚しいというね。それは大変なことですよ。

そういう意味で作家がどういう気持ちで創作に携わっているかということ、結局それなんです。

とても重要な事なんだと思います。

**幸地** 作家は創る側で、画商はコレクターとメディアとの間に立って売る側という関係性があります。

この三者は決してバラバラに存在するものではないんです。特にヨーロッパではなぜ芸術が大衆化したかということ、向こうでは、三者一体になって動くんですね。

それが沖縄ではバラバラになっている状況です。向こうではちゃんとやっているアーティストは必ず画廊を通します。

例えばビレーという60歳ぐらいのアーティストがいますけれども、彼にお客さんが直接売ってくれと電話を入れたらしいのですが、彼は即座に断ったそうです。自分はクロードルマン画廊を通してやっているんだからと言ったそうです。

お客さんは安く買いたいから、余りおもしろくないでしょうけど。でも凄く大事なことなんですよ。このことを理解させなくちゃいけない。

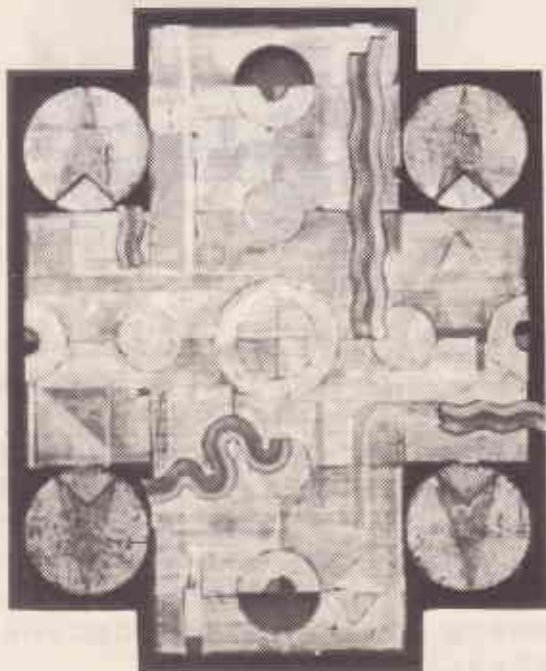
**金城** そう。その三者の関係が沖縄にはまだないですよ。

表現者は偉いんだとか、大衆が馬鹿なんだとか。解ろうが解るまいが、俺が死んだ後には解るからと、そういう人もいてもいいんだけど。それは結局、生活じゃなくて生きることにつながるわけけれども、表現しても“出口”がないから自己肥満していく。

要するに欲求不満もたまる。なんで世の中は俺のことが解らんのかと必ず言うね。結局そっちにエネルギーを使ってしまつて、表現というスクリーンに穴がいてくる。

網膜剥離みたいに結局、世の中が見えなくなるんですね。時代が見えなくなる、そんなことを繰り返してきたと思うんですね。

僕らの世代からみて思うことは、今までの世代には、失敗があったのじゃないか。それは生活化する環境を作ることに



金城 作品【SUMMER'S HIGH】106×86cm  
ペンペラ+油彩+墨/ソフトキャンバス

底的に美術社交界にも入っていったし、それでも拓けないのかと思いました。

あのなかに入るだけでもたいへんなんです。向こうの人はフランス語を話さないだけでも、パツと蹴つちやいますから。フランスの個人主義の圧力は、たいへんなものですよ。

**金城** それは、ここでは解らないですね。

**幸地** とにかく真っ暗なトンネルをとおぼ歩いている感じで、一軒の画廊さえ見つかればいいんだと思っていました。

そうこうしているうちに今まで積み重ねてきたものが必然的に結ばれてくる感じで、美術界の人間関係に少しずつ巡り合っていたのです。

## 沖縄での美術活動

**GV** パリに居ようが沖縄に居ようが、同じようにリアルタイムで情報が入ってくる。そして、同じような認識を持つことができる。時間も太陽の恵みで24時間平等に与えられている。そういう状況にあつて、国際的な見識や認識の備わった創作ができるか。パリでは

分厚い美術状況のバックグラウンドが確にあるわけですから、作家はダイレクトにぶちあたれる。

しかし、沖縄ではそれだけのバックグラウンドができてないんで厳しいと思います。

そこらへんを、金城さんに実際創作活動をしながら作家としての壁になっている部分なんかを、話して頂きたいんです。

**金城** いわゆる表現した作品の“出口”はどこにあるかということですね。“出口”が生活化してない、これが沖縄ですよ。これがパリなんかとの決定的な違いなんです。



沖縄で生まれた郷土の信販会社

# 沖縄信販

〒900 那覇市松山2-3-10 ☎(0988)61-1123代  
アートライフは、OCクレジットで。

“専門画材の店”

CULTURE PLAZA



# 株式会社 みつや書店

〒902 沖縄県那覇市壺屋1-1-3 ☎(0988)63-1650代

努力してきたかということです。

表現者側はもちろん、誰も何もしてない。とにかく変なプライドがあった。戦後ずっと沖縄という土壌が、それを忘ってきたと思います。

ヨーロッパというのはその厚みが、作



幸地 学

家・画商・大衆という三者の関係を作るのに味方したんです。沖縄でそれができなかったのは何故か。余りにも芸術を過信していたんです。

ワッターは芸術家だ、ワッターは偉いという特権意識ですね。ただ人にそれを押しつけなければいいんです。自分だけで持っていればいいんですけど、早い話が押しつけ芸術ですよ。

## 表現のエネルギー

**金城** 幸地さんは現在、世界的美術界がガス状態であるという、非常に示唆に富んだ発言をしていましたが、もう少し詳しく聞かせて下さい。

**幸地** ひとつは、1970年代いろんな美術運動が一挙に開花して、80年代に静まり返ったんです。

それから、これといった新しいのは出ていないんです。だいたいその傾向を追っているというふうなことが言われているわけですね。

それが世界美術のガス状態と僕はみています。そのガス状態を把握するというのを考えた場合に、美術という本来の在り方が「現実」というものを把握することですから、ますますそのガス状態を観ていかななくてはならないと考えています。その時でしか、できないというのが美術なんです。

たとえばミレーは、あのような写実の落穂拾いをあの時、あの空間だったからこそ、あの現実を把握したということなんです。

**金城** 結局、芸術は社会の反映だということですね。社会を見るために芸術をするということですね。

**幸地** 現実を把握するということを考えると、チャップリンなどは芸術家としてすごい洞察力を持っていたと思います。

常に変化している現実を物凄い力でもって深く豊かに把握しているんです。人間の文化というのが常に千変万化していることを捉えているんです。

そこに無限の可能性というのが生まれてくるじゃないか、そのなかで挑戦もあるし、そこに人間の存在価値も見出させるような気がします。

チャップリンは確かに彼の時代を真摯に把握していたんです。そういう意味で今の時代がガス状態であるとするれば、それを僕自身の作品で何とか把握しようと思っているんです。

なぜガス状態かという、そのなかの可能性がある。つまり、形はないけれども、そこに何かが充満しているというわけです。

**金城** つまり美術はサイクルがひとつ終わったんです。

固体だったのが爆発して、液体だったのが蒸発した。それが動き出しているということ、形がまだないということですね。

**幸地** それで、どういう形になるか分かっていたらおもしろくない。それで具体的に言って下さいと言われても分かるわけでもない。

それは、これからつくっていくわけだから。

**金城** それで、まさにガス状態ということですね。

**幸地** ガスという意味でもうひとつ考えているのは、空気というのはわれわれの

生活のなかで不可欠なものでしょう。空気が突然なくなった場合には深刻ですよ。そういう空気みたいに日常のベースをなしているのがガス状態だと考えていい。

そのガスを把握するのは、作家にとって、とても難しいことなんだけれども…。**金城** となると、ガス状態とは地域性をも超えるわけですよ。

世界美術がガス状態だからこそ、沖縄でできることもあるんだと思う。

**GV** 話を聞いていますと、時代の空気を絡めとるセンサーは、幸地さんも金城さんも同じような気がしますね。

**幸地** 500年も前に琉球人たちは大陸へ



金城 満

向かい、危険を冒してまでいるんなことを吸収していった。おかげで中国の明文明の恩恵を得ることができ、現代をも築くことができた。

そういうことを考えれば、何かを得るということは、100%のエネルギーを出してチャンネルを無限に拡げることだと思う。それが本当の創造者、エネルギーだと思っんです。

**GV** パリ、沖縄のそれぞれの拠点から興味あるお話を聞かせて頂きました。

これからもご自身の立場で、可能性を拡げて発展していくことを期待しています。今日は、どうもありがとうございました。

ダイキン冷暖房機特約販売店 那覇市給水・排水設備工事指定店



南西空調設備株式会社

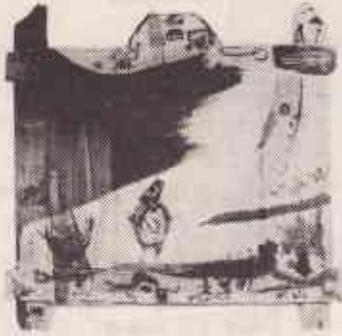
〒900 那覇市泉崎2 2 3 ☎(0988)34 7831代 FAX(0988)34 5348

國場組グループ

國 和 會

会 長 國 場 幸 昇

# 画廊沖縄 / GALLERY WORK-II 企画展予定



## ◀ 伊江 隆人展

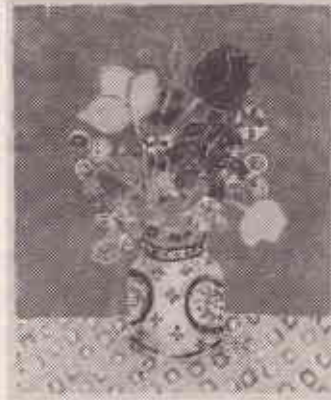
3月11日(月)~23日(土)

伊江氏の新しい素材への表現欲は計り知れない。杉の角材を使ったニューな作品の発表展示。

## ▶ アイズピリ展

4月8日(月)~27日(土)

1919年パリ生まれ、ピュブッエやカルーズと並ぶ、現代具象のパリ派の代表格。ポップではじけるような色彩は日本でも人気が高い。



## ◀ フリオ・ゴヤ彫刻展

5月13日(月)~25日(土)

1953年アルゼンチン生まれ(沖縄2世)。ロダン大賞展(1988年)の受賞以来、活躍発展が目ざましい。抽象化された人体はオリジナルティにあふれ、異彩を放って美しい。



## ギャラリーウーマン

### ◻ 私アートメッセンジャー ◻

画廊沖縄で無我夢中で過ごして5カ月目に入り、今ようやく画廊の仕事の全容がつかめてきたところです。

画廊で毎日絵画に接していくうちに、自然に絵画のもつ意味あい、深さを無意識に感じとれるようになりました。解釈はあくまでも自己流ですが、以前の私に比べ絵画に対する意識が大きく変わってきたのは確かです。絵に向かう時、作家の生きた時代の社会背景をふまえその主旨を解釈してみる、時には有無を言わさないほど強烈な作品に出会うこともあります。そのような作品は、作家の魂が

こめられ人間の生きかたまでも説いているかのようで、圧倒されてしまいます。私にとって絵画はもう鑑賞用だけではなくなってしまうんですね。

私はそんな絵画のもつ意味あい、深さを来廊なさるお客様に一つでも多く理解していただくお手伝いが出来たら、と考えています。でも、お客様の多くは私よりもずっと絵画にくわしい方々ばかりなので、逆に教わる事もあります。絵画に対する情熱だけは他のスタッフと互角に張合っているつもりなので、この若い(?)柔軟性のある頭とこれから積んでいくキャリアを武器に、アートメッセンジャーとして成長していきたいと考えています。(金城 和美)

## 大自然の恵み

湾岸戦争が、勃発し世界中暗いニュースの二月。さわやかな夏の青空を思わせる様なブルーとグリーン模様のステキな夏物のブラウスを買ってしまいました。20年程前の沖縄の青い空を覚えているでしょうか?私が記憶している空は真青な吸い込まれそうな深い蒼だったと覚えています。空が好きで不思議で、空の色ばかり気にして仰ぎながら歩いていたものです。それから夜の星空、これは絶品だった。幼い頃住んでいた家のトイレは別棟でしたので、夜中からひとりで起きだして、満天の星を飽きもせず眺めていました。真夜中のシンシンとした音を聞きながら…。今思えばすぐ身近に大宇宙の神秘を感じていたのです。今日では、色褪せた空の色に都会のイルミネーションしか見ることができない。とても悲しいことです。地球規模の自然破壊や汚染問題が叫ばれていながら、今度の戦争で又、尊い生命が失われ、輪をかけて地球が汚染されてしまいました。人間の無益な欲の為に。これからの大自然の恵みから与えられる真実の色彩や味覚を少しずつ忘れて行っても私たちは生活していくのでしようが、愛する事や感謝する事は忘れたくありません。いえ、忘れるはずがありません、なぜなら世界中の芸術家達がすべてを思い起こさせてくれるはずですから。きっと私たちは、努力して大自然をも取り戻すはずで。

(瀬底 貴子)

## 編集デスク

アラブのダダッ子・サダムちゃんのお陰で、世界の政治、経済が大混乱。東京の美術マーケットも昨年から落値が下りばなし、4月までケンカが続けば、銀座の画廊も倒産する所が続出する、とのウワサ。

2年ぶりの幸地学氏の個展は大成功であった。一段と深みを増した画面は我われを大いに魅了した。国際画壇で大いに活躍してほしい。金城満氏との対談も興味深い、異郷の土地で、命をかけた芸術生活をしている作家の言葉は疑う余地もなく重い。(上)

\* 額縁の専門店 \*

合資会社 前田額装商会

〒900 沖縄市松尾2-7-29 ☎(098)87-4811 FAX(098)81-0357



絵画(油彩・水彩・版画)の専門店

画廊 沖縄

〒900 沖縄県那覇市泉2-2-3 ☎(098)34-6760